

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホームうえのまち 東棟

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600096		
法人名	社会福祉法人 平和会		
事業所名	グループホームうえのまち 東棟		
所在地	〒024-0021 岩手県北上市上野町一丁目7-1		
自己評価作成日	令和4年8月20日	評価結果市町村受理日	令和4年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「家庭的な雰囲気の中でご利用者らしさを損なわないようなサービスの提供を目指します」を理念に掲げ、ご利用者様一人一人と向き合いながら支援していきます。
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同一法人運営の小規模多機能ホーム、サービス付き高齢者向け住宅とともに「上野町複合施設」として、閑静な住宅地の中にある東西二つのユニットの事業所である。職員は複合施設の兼務職員として、給食、行事の開催、避難訓練、研修、緊急時の対応など連携を取り協力して運営している。以前同じ場所にあった市運営の老人福祉施設時代から、近隣住民との協力関係が継続しており、コロナ禍前は地域住民への集会室の開放や施設行事への招待、利用者の地域行事への参加など、活発な交流がなされていた。現在、散歩時の住民からの声かけ、手作りマスクやお手玉、野菜等の差し入れなど、交流は細々であっても途切れずに続いており、今後に向けて、交流が継続する糸口になるよう取り組んでいる。職員の転勤が少なく、長くグループホームで働く職員がほとんどで、利用者職員ともに気ごころが知れていて、家庭的な雰囲気の中で利用者に寄り添う支援ができています。
---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年9月15日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名 : グループホームうえのまち 東棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所理念をユニットに掲示しており、職員は確認しながら利用者様らしさを尊重したケアを行っている。 ・会議の際にも理念についてを議題とした。	理念の「家庭的な雰囲気の中でご利用者様らしさを損なわないサービスの提供」は開設当初に作成されたものだが、何度か職員全員で見直しについて話し合い、その度に、事業所の支援の基本となるものとして、継続して実践につなげていくことを確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・新型コロナウイルス感染症流行前は、地域住民との関りがあつたり、ボランティア受け入れなどしていたが、現在は感染予防の観点から、取り組みは行われていない。	自治会に加入し回覧板も回ってきている。コロナ禍前は地区行事へ参加し、事業所行事へ住民を招待したり、集会室を地域へ開放し「100歳体操」や「ふれあいデイサービス」も行われていた。コロナ禍の中でも、地域住民から手作りマスクやお手玉の寄付、野菜の差し入れなどがあり交流は続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・入居者様の家族様や、入所申し込みや相談者から認知症に対する相談を受ける事がある。その際にはお話を傾聴したり、アドバイスなどをする事もある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・施設の運営状況お報告を行っている。 ・新型コロナウイルス感染症流行もあり、書面での開催が多くなっている。	運営推進会議は、コロナ禍のため2か月に一度書面開催の形で行っている。家族代表、地域住民代表、地区会長、区長、地区福祉協力員、市長寿介護課に法人からは施設長、事務局と事業所の職員が委員となり、運営状況や利用者の生活状況を報告している。	委員からの提案や意見がほとんどない状況なので、「委員が意見を出しやすいテーマ」として、例えば事業所が抱えている課題を示すなどの工夫を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・主にケアマネや管理者が市との連絡をとっている。 ・相談などがあれば、電話などで相談・確認している。	市の担当課職員が、運営推進会議の委員として参加しており、事業所の取り組み状況なども把握しており、相談等にはすぐに対応してもらえる良好な関係になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束廃止に関する指針を策定、委員会の設置、定期的な勉強会を開催している。 ・防犯上の理由から夜間帯は施錠している。	事業所として、身体拘束はしないという基本は職員で共有されている。確認の意味を含め、毎月会議の議題として上げて日常の支援を振り返り、スピーチロック等のチェックをしている。指針に基づき管理者、介護職員3人が委員となり委員会を毎月開催しており、職員への研修会も年4回開催している。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームうえのまち 東棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・高齢者虐待に関する資料を配布し、全職員確認している。 ・職員の体調や精神状況も気にかかけ、必要時には声がけしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・主に管理者やケアマネが関わっている。 ・権利擁護や成年後見制度についても資料を確認し勉強している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約書や重要事項説明書について十分に説明し、理解・納得頂いている。 ・説明の途中にも、疑問点がないか確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・以前行っていた家族交流会等は新型コロナウイルス感染症流行もあり現在は中止している。 ・毎月の状態報告や、日常の家族様との連絡時を大切にし、家族様の思いを確認し、要望等ないか確認している。	利用者との日常の会話から要望等を把握している。「甘いものが食べたい」「家族やペットに会いたい」など、食事や生活に関する要望が多くあり、対応している。家族からは面会や電話で職員が生活状況を報告した際に聞いており、要望等は都度連絡ノートに記載し、職員間で共有している。家族アンケートも実施し満足度を把握するとともに改善に努めている。家族からケアプランの確認を電子システムでできるようにして欲しいとの要望があったが、実現はしていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員が話し合い、必要な備品は毎年購入している。 ・毎月の会議でも話し合いを行っている。	毎月の定例会議や年1回の主任との目標達成面談で個別に職員の意見等を確認している。また、管理者やケアマネージャーが日頃の職員との会話の中から要望や提案を把握している。手作りおやつ作り、流しソーメンの開催、ドライブの実施、テレビにユーチューブを繋げたいなどの提案を具体化している。	

令和 4 年度

事業所名 : グループホームうえのまち 東棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・処遇改善加算や特定処遇改善加算を算定。 ・有給休暇、看護・介護休暇の取得。 ・研修受講料や交通費補助。 ・永年勤続表彰。 など		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・外部、内部研修に参加し個々のスキルアップを目指している。 ・困っている事や苦手な事を他職員に質問し、対応方法やアドバイスをもらえる取り組みをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・新型コロナウイルス感染症流行もあり、他事業所との交流は出来ていない状況である。 ・法人、姉妹法人の施設間では情報交換など出来ている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・入居前に利用者様が困っている事、不安な事を聞いてコミュニケーションを図りながら信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族様から話を聞き、不安な事や困っている事を聞き、自宅での生活の様子を聞きながら今後の要望等、詳しく話を聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様と家族様から話を聞き取った上で支援の優先順位を考え、出来る限り対応するように努めている。職員も情報収集に努め必要なケアを考えながら対応している。		

事業所名 : グループホームうえのまち 東棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者様の得意な事や、好きな事、家で行ってきた事を変わず出来るように、職員と一緒に行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・窓越し面会やオンライン面会の時等、日常生活の様子を伝えている。長い間面会が出来ないときは、家族坂を思い出して頂けるように、写真や思い出の物を持って来て頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・新型コロナウイルス感染症流行中であり、外出や人と会う機会は減っている。 ・馴染みの場所や、地域の行事を映像で流すなどの工夫をしている。 ・親戚から手紙が届いたり、映像が送られてきたりする利用者様もいる。	コロナ感染防止のため、地域住民との交流は難しいが、家族との窓越しの面会を続け、また毎月写真付きの利用者の「生活の様子」を届けることで、交流が途切れない工夫に努めている。他県にいる子供や孫と「孫ネット」ツールを利用しオンラインで交流している方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員が間に入り利用者同士が会話をしたり、出来ない事は声を掛け合い、助け合い、支え合える関りが出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後はこれまでのケアの工夫などの情報を伝達し、暮らし方の継続性に配慮してもらえよう働きかけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人一人の希望や思いを聞き取り、確認を行い、生活の中で希望や思いに沿えるように会議で話し合っている。	東棟・西棟合わせて自分の言葉で話せる方16人、かみ砕いて問いかければ話す方も2人いる。入居前の生活史の把握に加え、新たな環境で生活するための趣向や希望、思いの把握に努め、データ化により職員がいつでも入力や閲覧できる連絡ノートで情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居前の生活環境や生活歴を十分に聞き取り、生活スタイルが変わらないよう洗濯物たたみや食器拭き等を継続して行って頂いている。		

事業所名 : グループホームうえのまち 東棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・各利用者様が自分らしく過ごす事、無理なく生活する事を考え、体調・食事量・水分摂取量・排泄・睡眠状況等の確認も行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・家族様に支援の意向を確認したうえで、担当者と利用者様の性格、行動、ADL等を踏まえ、どのような援助が必要なのかを話し合い計画を立てている。会議でも担当者以外の職員からも意見を出し合い検討し計画を立てている。	新規入居者の介護計画は、入居前に収集した資料でケアマネが中心になって暫定の介護計画を作成している。入居後1か月様子を見た上で、会議で職員の意見を聞き継続又は見直しとしている。モニタリングは、変則勤務で支援することから、全員の意見を踏まえて行き、それをケアマネージャーがまとめて職員会議で評価し次の介護計画に向けた見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・少しでも変化があった時は詳しく記録し他職員にも申し送りしている。また、メモにも残したり、こまめな記録をする事で情報共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・ニーズに対応出来るよう、余暇活動に取り組んだり、散歩をしたり、花を育てたり、時には家族様の協力を得て取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・新型コロナウイルス感染症流行もあり、地域との関りが薄くなってきている。 ・職員がサポートする事で利用者様が心身の力を発揮しながら暮らしを楽しめるように気にかけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・受診の際は日常生活の様子や日々の状態、相談事などを記録用紙に記入し伝えている。 ・状態変化があった場合など、必要に応じて職員も同行している。	西棟・東棟合わせて、入居前からのかかりつけ医を受診している方9名、入居後訪問診療に変わった方が10名(かかりつけ医が訪問診療医と同じ利用者1名は重複)いる。通院付添いは家族が行い、日常の様子などを書いた記録用紙により情報提供し、受診結果は家族から聞き取りしている。症状により必要があれば職員も受診に同行している。週1回、訪問看護師が健康観察を行っている。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームうえのまち 東棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・訪問看護と契約しており週に一回は訪問看護が来所される。その際に日常生活の様子報告や状態変化について相談し助言を頂きながら対応している。 ・週一回の訪問日以外でも、体調変化時や不安な事等あれば、電話にて相談したり、助言や指示を受けたりすることが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・入院の際には在宅情報を作成し担当者に渡している。入院後は状態把握の為、ソーシャルワーカーと情報交換を密に行い早期退院に向けて受け入れ出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に利用者様、家族様の意向を確認している。その後も状態変化があれば再度意向確認している。その際に医療的な行為等も説明し、施設で対応出来る事、出来ない事をお伝えしている。看取り指針についても説明を行っている。	入居の際に重度化や看取りについて指針に基づき説明し、意向を確認している。現在1名が看取りを希望しており、家族に病状や生活状況について詳しく情報提供し、意向の再確認をしているところである。ほとんどの職員が看取りを経験しているが、看取った後に職員で話し合い、振り返りを行うなどして、職員の心のケアにも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時の応急処置や対応マニュアルを作成し、適切に実践出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年二回の避難訓練を実施。反省会を行い改善点がないか話し合っている。 ・新型コロナウイルス感染症流行もあり、地域住民参加の避難訓練は休止中である。	事業所を含む「上野町複合福祉施設」が一体となり、年2回避難訓練(夜間想定1回)を実施している。建物がある場所は、がけ崩れや洪水の心配もなく、市のハザードマップ上で災害指定もされてない。コロナ禍前には地域の協力を得た防災組織結成を視野に入れた取り組みの途上にあったことから、それをベースにコロナ禍終息後の体制づくりを検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・プライバシーに配慮する心がけは出来ている。 ・可能な限りプライバシーの確保を行おうとしているが、職員が一人の時間帯にトイレ対応する際など、転倒の危険性がある利用者様もおり見守りの為に戸を少しだけ開けてしまう事がある。	利用者の「その方らしさ」を大事にし、トイレ誘導は「〇〇に行きましょう」と声がけして途中で排泄を促すなど恥じらいにも配慮している。一人で散歩に行きたい利用者には、職員は遠くから見守り、意向を尊重した対応をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者様の希望を受け止めたり、実現しようという気持ちはある。 ・「こうしたい」という思いに寄り添い、自己決定できるように提案なども行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ある程度の一日の生活の流れは決まっているが、その時々利用者様の状態に応じ可能な限り、利用者様ペースで過ごして頂けるように心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・起床時や入浴の際に整容に気を配っている。 ・その日の天候や気分によって、服装を選んだりもしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・盛り付けを一緒に行いながら、食事への関心を持って頂くように働きかけている。 ・食器の片付けや食器ふきなども、職員と一緒に行って頂いている。	利用者の特性に応じて、配膳や盛り付けの手伝いなど楽しみながら参加している。甘いものが好きな方が多く、手作りおやつが好評である。献立は栄養士が作成し、小規模多機能ホームで一括調理している。利用者の嗜好調査と残食調査を行い献立に反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・利用者様それぞれの食事・水分摂取量を把握して、不足していると思われる方には、食事形態や水分の種類を変更してみるなど、職員間で検討対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・ご自身で歯磨きを行えている利用者様も、口腔内の汚れや異常がないか確認している。 ・介助が必要な方は、職員が仕上げ磨きや口腔内の確認も行っている。		

令和 4 年度

事業所名 : グループホームうえのまち 東棟

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的にトイレの声がけや誘導を行い、排泄間隔を把握している。</li> <li>・トイレでの排泄を促すことで、パットへの汚染や使用量が減った方もいる。</li> </ul>	東棟・西棟合わせて布パンツ使用4名、リハビリパンツで自立3名、リハビリパンツ使用で誘導が必要11名となっている。終日おむつ使用はなく、4名が夜間にポータルを使用している。尿取りパットから自立した方が1名おり、自立に向けた取り組みが成果を上げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・便秘傾向の利用者様には、水分の促しや体操などの運動も取り入れて、改善や予防に努めている。</li> <li>・牛乳などの乳製品の提供もしている。</li> </ul>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある程度の入浴予定は立てているが、利用者様のその日の気分や体調を考慮し、別日に入浴変更等の対応をとっている。</li> </ul>	月～土曜日の午前と午後、一日6～7名が入浴し、利用者は最低週2回入浴している。入浴を嫌がる方には、入浴時間を夕方にしたり別の日に入浴したりと調整している。菖蒲湯や柚子湯もあり、職員との会話や利用者二人で入浴して会話を楽しんだりして、リラックスする時間となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・午睡や夜間の睡眠状態の確認を行っている。</li> <li>・その日の表情や体調を観察し、休むよう声がけする事もある。</li> </ul>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬の内容については理解している。</li> <li>・一人一人に合わせた服薬支援を行えている。</li> <li>・副作用などにも注意し、日々体調観察に努めている。</li> <li>・服薬間違いの無いよう職員同士で確認を行っている。</li> </ul>		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・折り紙、貼り絵、歌、体操等、利用者様それぞれが時とする分野で楽しんでいる。</li> </ul>		

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・現在新型コロナウイルス感染症が流行中であり、感染予防の為思うように外出は行えていない。 ・受診の際には家族様に協力をして頂いている。	コロナ感染防止のため、外出の機会が少なくなっている。そのため、事業所周辺の散歩や少人数でのドライブ、家族との通院、敷地内の桜の木の下での花見会、梅の実を収穫しての加工、栗拾い、干し柿づくり、建物内での「流しそうめん」など、外出に代わる楽しみを工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・ご自身でお金を管理する大切さは理解している。 ・ご自身でお金を管理している利用者様もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	・職員がお手伝いしながら、家族様宛の手紙、住所や文章を書く時もある。 ・利用者様から電話を掛けたいと訴えがない場合でも、職員又は家族様からの電話時には、ご利用者様とお話し出来るように声がけしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・馴染みのものを居室に置いたり、季節を感じられる飾りを一緒に作成し装飾している。 ・快適な室温になるよう空調などは職員が管理している。	少人数で語り合えるようソファを置いたり、車いすでも通りやすいように配慮している。壁には、敬老会の飾りなど、季節に合わせた装飾がなされている。エアコンで空調し気持ち良く調整されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ご自身の食事席で過ごされている方が多いが、ソファにて休める空間や、利用者様同士でテレビを囲み談笑出来るような空間作りを意識している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅での生活と変わらないよう、使い慣れたものを持って来て頂き、居心地良く暮らせるようにしている。	利用者はそれぞれ、テレビやラジオ、リクライニング式の椅子、遺影や仏具、料理が得意だった方は冷蔵庫や食器や調理器具などの馴染みのものを持ち込んでいる。エアコン、ベッド、タンス、床頭台、換気扇が備え付けられており、家族写真やぬいぐるみなどが思い思いに飾られ、居心地の良い部屋が作られている。	

令和 4 年度

## 2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームうえのまち 東棟

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・安全に生活できる環境作りを心掛けている。 ・利用者様の状態に合わせ、安全に作業できる環境を整え、出来る事を継続して行って頂いている。		